

【GRI G4実践編】2014年度以降のあるべきCSR報告書について

日時：2014年2月19日(水) 午後1時30分～5時10分(受付開始：午後1時)

会場：関西学院大学 東京丸の内キャンパス ランバスホール

東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー10階 (JR東京駅八重洲北口より徒歩1分) 会場案内図：下図参照

主催：経済人コー円卓会議日本委員会

対象者：GRI G4 Certified Training Course受講者限定

参加費：無料

締切：2月14日(金)

会場ご案内図



プログラム

- 13:30 開会
- 13:35 ワークショップ
(期待と不安、CSR担当者の悩み)
- 14:00 海外と日本のCSR活動における
ギャップはどこにあるのか？
グローバルトレンドから大きく乖離していた日本の
CSR活動に警鐘を鳴らし、ガラパゴス化した日本企業
のCSR活動をどのように挽回すべきか？
- 14:20 CSR報告書に記載すべき
内容について
ステークホルダーに納得してもらうためには、何を
すべきか？
説明責任と透明性の考え方を正解に理解することで、
報告書に何を記載すべきか？
- 14:40 マテリアリティ特定～報告プロセス
マテリアリティとバウンダリーをどのように特定するのか？
定性だけでなく、定量的に裏付けされたデータを基に対応
する方法を紹介する
- 15:30 休憩
- 15:45 今後のCSR活動について【意見交換】
グローバルCSRイニシアティブ団体が企業に求めている
懸念事項を盛り込んだ形で、当会が世界に先駆けて開発
した取り組みステップを紹介する
- 17:10 閉会

GRI G4に沿ったCSR報告書を作成するためにはどうすればいいのだろうか・・・？
多くのCSR担当者の方がこのような悩みを抱えられていると思います。
実際に、当会に対しても様々な方々からお問い合わせやご相談をいただく機会が増えました。

当会では、昨年12月よりGRI公認の研修プログラムである『GRIG4 Certified Training Course』を開催していますが、このプログラムを受講された方々を対象に、より実践的な内容の研修となる「【GRI G4実践編】2014年度以降のあるべき報告書について」を開講します。
このプログラムでは、今後CSR報告書にどのような内容を記載すればよいかについて、具体的にお示しします。

また、当会ではGRIだけではなく、様々なグローバルCSRイニシアティブ団体やNGO団体と連携を強化し、ステークホルダーが何を企業に求めているのか最新の動向をお伝えしています。
グローバルトレンドを押さえ、全体像をしっかりと把握・認識した上で、CSR活動に取り組むのか、あるいは唯我独尊で対応するのかでは、今後起こり得るリスク発生時の対応に大きな違いが生まれてくることは必定です。
是非ご参加下さい。



経済人コー円卓会議日本委員会
専務理事・事務局長
関西学院大学専門職大学院教授
石田 寛

参加お申込及びお問い合わせについて

本プログラムはGRI G4 Certified Training Programの受講者限定とさせていただきます。
受講者の方々へは、別途お申込方法についてご連絡いたします。